

2017年第3期7課 信仰への道 8月12日

A 律法と約束 ガラテヤ 3:21

- ❖ 信仰と律法は救いの計画において異なった役割を持っている。
- ❖ パリサイ人は、人は「これによって生きる」と書いてあるので、律法が命をもたらすと考えていた。(レビ 18:5)しかし律法は霊的生命をもたらすことはできない。
- ❖ それゆえパウロは私たちの生活における律法の役割について説明したのである。

B 「律法の下で」私たちの「監視」としての律法 ガラテヤ 3:22-23

- ❖ 「律法の下で」という表現はふた通りに理解される。
 - ー 救いの二者択一としての律法の下(ガラテヤ 4:21)
 - ー 私たちの罪のせいで有罪にする律法の下(ガラテヤ 3:10; ローマ 6:14-15).
- ❖ 律法は、それを犯し、それぞれの罪によって死の宣告を受けた全ての人を牢獄に入れる看守のようなものである。
- ❖ 「閉じ込められた」と「監視された」(牢獄に入れられた)には肯定的意味があるかもしれない。
 - ー 「閉じ込められた」: 保護された、守られた。(ピリピ 4:7; 1ペテロ 1:5)
 - ー 「監視された」: 集められた、確保された(ルカ 5:6; ローマ 11:32)
- ❖ 律法は呪いではなく、祝福だった。それはイスラエルを悪から守り、身体的、道徳的墮落から人々を守った。

C 私の養育係としての律法 ガラテヤ 3:24

- ❖ 律法はなぜ私たちの養育掛なのか。
 - ー それは私たちを教え、罪がなんであるかを示す。
 - ー それは私たちが罪人であることを思い起こさせ、有罪とする。
 - ー それは唯一の救いの道であるキリストへと私たちを導く。
- ❖ 律法は罪人に救いの必要を示すために与えられた。

D 律法と信者 ガラテヤ 3:25

- ❖ キリストは私たちを律法の呪いから解き放ち、私たちの心に神の律法を書き記す。(へブル 8:10)これはどういう意味だろうか。
 - ー 私たちは罪を許され、もはや律法の呪いの下にあるのではなく、恵みの下にあるのである。(ローマ 6:14).
 - ー 今や律法は私たちの心に書き記されており、それをイエス様の御品性を示すことによって表す。なぜなら、律法はイエス様の御品性の表れだからである。(マタイ 5-7 参照)
- ❖ 神様が律法を私たちの心に書き記される時、私たちはそれにどのように協力したらよいだろうか。